

第2回総合教育会議 会議録

1 日 時 平成29年2月24日（金） 午後3時30分 開会

2 場 所 東松島市役所 301会議室（3F）

3 出席者 東松島市長 阿部 秀保

東松島市教育委員会 教育長 工藤 昌明

東松島市教育委員会 委員 石森 さと子

東松島市教育委員会 委員 菊池 伸之

東松島市教育委員会 委員 福田 ゆかり

東松島市教育委員会 委員 木村 和彦

（事務局）

東松島市総務部長 川田 幸一

東松島市総務部総務課長 小山 隆

東松島市総務部総務課秘書広報班長 鈴木 純子

東松島市教育委員会教育次長 小山 修

東松島市教育委員会教育総務課長 高橋 ひさ子

東松島市教育委員会学校教育課長 仲上 浩一

東松島市教育委員会生涯学習課長 齋藤 敏文

東松島市教育委員会学校教育課指導主事 三浦 秀之

東松島市教育委員会教育総務課教育総務班長 奥田 和朗

（説明員）

東松島市復興政策部復興政策課地域振興班長 大久 政信

4 傍聴者 なし

5 開会

小山総務課長（司会） それでは定刻になりましたので、ただいまから平成28年度第2回東松島市総合教育会議を開会いたします。開会にあたりまして阿部市長よりごあいさつを申し上げます。

阿部市長 はい、失礼します。皆さんこんにちは。お疲れ様でございます。平成28年度第2回東松島市総合教育会議ということで御案内申し上げましたところ、お時間を頂戴いたしまして本当にありがとうございます。お礼申し上げます。今日は朝からの各学校の視察も含めてということでございますので、改めて感謝を申し上げます。今日は2月の24日ということでもありますけれども、来月3

月の11日まいりますと東日本大震災から丸6年ということになります。復興は道半ばではありますけれども、確実に復興進捗しているのかなという声も聞こえてまいります。また派遣職員それから市の職員はもちろんですけども、関係者一丸となって取り組んでいるということで、まだまだ300弱応急仮設で避難生活を送っていますので、一日も早くということで一義的には住宅再建そして合わせて教育施設等々の計画には位置づけていますけれども、今後も加速させていきますのでよろしくご協力いただきたいと思います。今日の議題は、それぞれ(1)(2)(3)でその他でございますので、積極的なご提言等いただきたいと思います。前回は6月24日に第1回開催しておりますので、それ以来ということになります。また、本来であれば閉会でごあいさつするところではございますけども、閉会は教育長さんがごあいさつしますので、私の任期も4月28日までということで12年間大変お世話になりました。まだ時間ありますので、まだまだ全力投球で最後まで仕事をやり通すということで、議会でもそういった決意を述べさせていただいておりますけども、理念というか人のお役に立ちたいということで市長を拝命しました。人のお役に立つことは仕事をすることでございますので、その一念だけであつというまに12年間、東日本大震災では仕上げを残したかなというふうには思っていますけれども、新しい社会問題もありますので、新しい人にバトンタッチをしたいという気持ちも強いですし、一番の大きな理由90%以上そうですけれども、東日本大震災直後から政治家としてこれだけ多くの死者を出したという道義的責任もあらずっと考えておりました。と申しますのは、私のマニフェストと申しますか政治ということではなくて、行政の姿勢ということで受け止めていただきたいですけども、やはり2003年、平成15年の北部連続地震の体験それから、その1年で10年後に50%当時ですけども、20年後に90%、30年後に99%の確率で宮城県沖地震が発生しますよということでございますので、その総仕上げをするということが自分のマニフェストの中に入れさせていただきました。そういったことからすれば、防災ということでは被災自治体の中、あるいは県内の組長さんの中でも強い信念を持っておりましたので、震災直後の数日間、市の体育館などを朝から見てあれだけたくさんのご遺体を見た時に、映画の撮影なのかなとそういうふうには思いたくなるような大変なショックと申しますか、それと合わせてどういう責任をと忘れもしないわけでありませう。そういった中で4年前改選期でありましたけども、たぶん被災者の中には私の顔を見たくない人もいるだろうな、交代して新しい市長に変わった方がいいのかなとそういった率直な思いもありましたけど、多くの皆さんから逃げるのか、俺達を見捨てるのかという声がありましたので、自分の気持ちは二番目に入れ替えさせておいてこの4年間進めてまいりました。きれいな言葉に置き換えられないですが、3期12年ですが自分の気持ちとしてはこの4年間は延

長戦ということで、2期12年間仕事してきたという気持ちが率直な気持ちでございます。そういった中ではこの間法改正もありまして、地方教育行政の組織および運営に関する法律の一部を改正する法律これは国の方でいじめ問題等々やはり教育委員会のひとつの組織だけではなくて、執行機関も中に入ってスピード感をもって解決するというような、そういった国の考え方もあるのかなと理解しましたので、迅速な危機管理体制の構築ということで、そういう中ではさらに今まで以上に皆様の執行権のそれぞれの要望をお伺いしますが、当然政治的な中立も含めてですが、これまで以上に信頼し合った教育委員会との関係をとっていますので、引き続きよろしく願いいたします。私の方が最初に皆様から任期満了ということで、今回で最後になるので本来はこういったあいさつは閉会后ですが、まとめて時間をいただいてさせていただきました。これからもよろしく願いしたいということでのごあいさつとさせていただきます。ありがとうございました。

小山総務課長（司会） それでは早速議題に入らせていただきます。総合教育会議運営要綱第4条第2項の規定により、市長に議長をお願いして進めてまいります。それでは市長よろしく願いいたします。

阿部市長（議長）

はい。それでは、要綱の定めるところによりまして議長を努めさせていただきます。座ったままよろしく願いいたします。それでは議題に入ります。

（1）いじめ問題についてです。学校教育課管内の状況について説明をいただいたうえで議論をすすめていただければと思います。よろしいでしょうか。

それでは学校教育課長よろしく願いいたします。

6 議 事

<（1）いじめ問題について学校教育課より説明>

阿部市長 それでは説明の方は以上でよろしいですか。ありがとうございました。ではこのことについて何かご質問がありましたら、挙手のうえご発声いただきたいと思います。

阿部市長 何かありますか。

工藤教育長 はい。

阿部市長 では、お願いいたします。

工藤教育長 質問というか私は質問する立場にないので、説明しなければならないのですが、小学校認知件数109件のうちの108件解消と中学校も21件のうち20件解消と1件なわけですね。新聞等の報道でもあるとおりの解消ということの認識をしっかりとしないと終わったと思っていても続くことがありますよね。その辺がやはり課題だろうなと思っています。いじめは本当に大変な難しい問題で、子供同士会わせてやめましようねと言って、はい、おしまいというので解

消としていいのかが大きな問題だと思っておりますので、その辺も含めて各委員さん方からもいろいろご発言をいただければ、私も有難いなと思っております。

阿部市長 はい。今教育長さんからそれぞれ各委員さん方からご発言があればというような、ご意見ありましたけどいかがでしょうか。ご質問含めてどんな状況だろうかということでも結構です。では、木村委員さんお願いします。

木村委員 委員の木村です。よろしくお願ひいたします。28年度前年度に比べると小学校がかなり多くなったという要因がもし分かれば教えていただきたいと思ひます。

阿部市長 では学校教育課さんお願ひします。

三浦指導主事

それでは、お答えさせていただきます。先ほどお話しましたが、いじめの認知につきましてはどんな軽微なものでも数としてあげてくださいということで、今年には特に求めています。それで、本市としては各校の生徒指導はもちろんですが、年5回ということでいじめの実態調査を各校にお願いしています。それを見ますと軽微なものでは特に悪口を言われるとか、からかわれるというような、軽微なものも数として特に小学校では多くこちらに報告があがってきておりますので、その点について昨年度から数字が増えた要因として挙げられるのではないかと思ひます。

阿部市長 よろしいでしょうか。

木村委員 はい。

阿部市長 では、教育長さんどうぞ。

工藤教育長 はい。いじめについて報告の数を増やしたら、学校が責められるのではないかとということで、これはやめておこうということが以前はあったように聞かれますが、そういうことではなくて、むしろきちっと公表して実際調査の結果こうでしたとあって、でもきちんとそれに対して対応するんですよね。いじめと認知したら学校はきちんと対処して、そして解消の確認をしてという手続きをふんで、現在小学校1件中学校1件の継続指導中ということなので、数が増えたことについてはあまり問題視せずにご対応してきたかということが大事だと思ひます。

阿部市長 なおご理解が深まればいいのですが。私が発言するのはあまり好ましくないのですが、松島基地があつて例えば、残念ながら何年かに一回は事故があつてその時思ふことは、最初にその事故原因をまず我々に皆さんによく理解していただいて、その次に合わせてセットで再発防止、そうでないと納得しないというか、やはりその原因がよく分からない中で再発防止もないですし、理解もないので、そこはやはり大事なところかなと感じますし、この例のなかでは極力学校の方に多く出さないと、当然今までよりも先生もどうかと思つた例でもあがつてくるわけですから当然数は多くなると思ひます。そういった中では情

報の共有というのが大切なことで、もっと大切なのは、私たち行政もそうですが自分たちの都合のいいというか良い情報は出しやすいですが、それもそうですがむしろ皆さん方が知りたがっている情報、親御さんとか地域とかが知りたがっている情報を正しく出せるかどうか、そしてまたスピーディーに、正しく事実ということになりますのでそこが大切かなと思います。学校の方はどうしても生徒さんの数も多いし、一応みんなの意見や本人の意見を聞いてからなので時間はかかると思います。でも、スピーディーに新聞で知るということがなく関係者は事実を早めに直接確認してから新聞に載るくらいならいいですが。では、次に回していいですよ。他にいかがですか。

菊池委員 はい。

阿部市長 はい、どうぞ菊池委員さん。

菊池委員 認知件数に対して解消率ということで小学校108件中学校20件とありますけど、その現在の小学生1名と中学生1名の今の状況というのをお聞かせいただければなと思っています。

阿部市長 では、お願いします。

三浦指導主事

はい。小中学校1件ずつということでもちろんクラスの中でどうしても友達の間の中に入れないというところが、自分はいじめられているのではないかと認識しているお子さんのケースがあります。それにつきましては、各学校でその子に応じた個別指導も含めてですが、学級の中での子供達同士の関係も含めて学校全体として指導していただいているのですが、家庭でのご理解等もいただくために、家庭訪問それから学校に来ていただいて面談等も繰り返し行っております。今現在ですが、徐々に保護者の方のご理解も少しずつ得られてきているということで、良い方向にきていますとお話は伺っていますが、まだ完全にそのクラスの中にしっかり入れるというところまでは、なかなかいってないという状況もございまして、継続して見守りながら指導を続けていると報告があがってきております。先ほど教育長からもありましたが、解消されたということで終わりということではなくて、継続して見守りながら指導を続けていくということも非常に大事な点だと思いますので、この継続事案も含めて各学校には今後も指導等お願いしているところでございます。よろしいでしょうか。

阿部市長 はい。よろしいですか。他にいかがですか。それでは(1)のいじめ問題についてはまずご理解いただいたということで、(2)学力の向上についての現状について資料に基づき学校教育課より説明があります。

< (2) 学力の向上についての現状について学校教育課より説明 >

阿部市長 はい。ありがとうございました。ただいまの説明について何かご質問があればご発声いただきたいと思います。では、福田委員さんどうぞ。

福田委員 教育委員の福田です。よろしく申し上げます。こちらの方はすべて市内の平均だと思うのですが、小学校と中学校それぞれの学校別で結果が出ていて、大きな開きがあるような場合は教えていただけますか。

阿部市長 はい。それでは仲上課長さんお願いします。

仲上学校教育課長

はい。その質問がいつ出るかと思っていました。正直なところを言いますと小学校8校それから中学校3校の間でかなりの差がございます。先ほど小学校は県や全国よりもかなり落ちているとお話しましたが、県や全国よりもほとんど上回っている小学校もあります。ということはかなり下回っている学校もあるということです。それに対しまして中学校はほぼ平均的なのですが、やはり中学校の中でも開きはそれなりでございます。一応、本市としてはあまり競争意識を煽らないということで市の結果は公表いたしますが、学校別の結果は公表しておりません。ただ、各学校ではその実態は当然分かっているわけで、その結果に基づいて各学校なりに、すべて対策を含めたものを出していただいています。それは教育委員会で十分把握しておりますので、それぞれの学校の今の結果の実態に応じた対策は取っております。はい、どうもありがとうございました。

阿部市長 よろしいですか。はい、どうぞ石森委員さん。

石森委員 はい。今のお話を踏まえて、今朝ほど赤井小の方に学校訪問に行ってきましたが、その中で赤井小の校長先生によりますと赤井小独自の学力向上のプログラムを作成しているようで、例えば赤井小では授業の間の業間の休み時間を5分ずつ少なくして、最後にもう1時間授業を取るような感じでやっているようです。それで、授業の延長だと結局子供達は疲れてしまって集中しないということで、ちょっと視線を変えてゲーム的なものをしたり小さいプリントでどんどん問題をこなしていくようなものをして、確実に学力は上がっていると、本当に微増ですが去年よりも今年というような感じで、確かに手応えはありますよ、とのお話がありました。今、赤井小さんだけでそのような事をして上がっているのはよくないので、全体の底上げということで今後とも各小中学校でそのような計画、独自の学力向上のプログラムを作っていただくのも良いと思いますし、あと1月に教育長先生と研修会に行ってきました。その中で大河原の教育委員会の取り組みを紹介していただきまして、今このような小中学生そして保護者、町民の皆さん本気で考えてというようなプリントを作って小中学校の保護者だけでなく、町民みんなで子供達のことを考えましようと、例えばゲームとか携帯やスマホは9時以降禁止して大河原ルールの決定というプリントですが、それによって大河原さんの方でも学力向上につながっているという結果が出てい

ます。それから、もちろん今教育委員会の方でもこういうプリントを作りまして地域の皆様へということではありますが、これをもう少し例えば市報とかでお知らせしてみんなで学力向上を助けていきたいと思いますという気持ちを持っていただくように、それが結局教育委員会で行っているコミュニティスクールにもつながっていくと思いますので、ぜひともPTAだけで終わらず市民皆さんの方に周知していただきたいと考えています。その辺は何か計画とかありますか。

阿部市長 では、今後の計画について課長さんお願いします。

仲上学校教育課長

あとで教育長にも補足していただきますが、今石森委員さんの方から出た話は、全くその通りでございます。ただし各学校では校長の経営方針の本当に最重要課題にどの学校も学力向上は据えております。そして、市独自で行っております取り組み、例えば家庭学習の手引きとかそういったものをプラスして、各学校の今赤井小学校が例に挙がっていましたが、どの学校もそういった取り組みはしています。朝の時間を使ってスキルタイムを取ったり、スクールバスが来る30分間を利用して補修学習を行ったり、授業には担任を持っていない先生が積極的に加わったりそういった形で対策は取っています。ただ、委員さんからお話がありましたように、学校だけで学力向上が形成されていくものではないので、家庭地域も含めてやはり大きな目玉であるコミュニティスクールみんなで子供達や学校を支えてその中で学力向上も取り組んでいけたらと考えております。ただ、ひとつ言えるのは、学力向上はあくまで学校教育全般の中で取り上げられるものです。例えば、朝の時間今はほとんどの学校が昔は朝のランニングとか校庭を走ったり体力作りをしていましたが、それがだいたいスキルタイムにシフトしてきています。そうすると学力向上もそうですが、やはり体力向上も宮城県の大きな課題です。ですので、他の教育活動とやはりひとつだけが上がって他は落ちるとするのはまずいので、全般的なバランスの中で特に学力向上の対策をとっていくという考え方で進めていきたいと思っています。では、教育長の方から補足をお願いいたします。

阿部市長 はい、教育長さんお願いします。

工藤教育長 学力向上の先ほどの大河原ルールは本当に素晴らしい取り組みだなと思っています。議会でもご質問いただきましたが、子供達自身もスマホでメールがきたら返事しなければいけない、という悩みを持ってそれが学校で決めても教育委員会で決めてもいいのですが、みんなのルールで9時以降はやめようねと決まれば、一応きても返事しなくてもルールだから守ったとみんなが安心できるのかと思っています。例えば、これがいじめにつながったりする状況がたぶんあると思うので、これは丁寧に取り組まないといけないと思っていますし、大河原のいい所は児童会生徒会がそれぞれ話し合いをして、うちの学校はこうしましょうと決めていて、その方法がとてもいい事だと思うので校長会等とも良

く相談しながら、学校ごとに取り組んでいる中で例えば教育委員会がこういうメッセージを出した方がいいというのであれば、私とすれば9時以降やめようというメッセージを出したうえで、それについて各学校で検討して下さい、児童会子供達自身で検討して下さいという方向がいいと思っています。それをやってもらいたいなと思っていました。それから全国学力学習状況調査の結果が基準になっているいろいろ話し合いをしています、森の学校というビジョンの中で今子供達に欠けているものは何かというと、ニ科尔さんの言葉を借りれば自然体験欠乏だということで、そういう視点も必要だと思っています。本当に豊かな体験を通して本当に学ぶとはどういうことなのか、各学校も真剣に考えていますし、テストのための勉強だとすればそれはテストが終われば剥落してしまう学力になってしまうので、本当の意味での学力を身につけさせたいと思うのが私の願いです。そういうことも含めながらやはり家庭学習、でも市民みんなで学校の勉強は大事だよねとそういう気持ちはみんなで共有してもらいたいと思っています。勉強しなくていいよということではなくて、スマホやテレビゲームを我慢するのは子供達だけじゃなくて大人も我慢しなかったら駄目じゃないかと私は思います。そんな気持ちであります。

阿部市長 石森委員さんよろしいですか。

石森委員 はい。

阿部市長 他にいかがですか。よろしいですか。

工藤教育長 すいません、せっかくなので市長さんもぜひ学力について一言お願いします。

阿部市長 はい、今回が最後だということで市長の考えを聞きたいということで、質問をいただいたのですが、昔は亡くなられた議員さんとよく会話していました。その議員さんは「俺は気を付けていることは、例えば高校進学でいつもだいたいこの位行く、それは生徒数とか多少のずれはあるがこのA学校なら進学校にこれくらい行く、それが著しく減少となる時は学校に言わなければいけないと思っていると、今のところだいたい頑張っているとそれは俺のひとつのメッセージというか見方だ」とよく話されていました。PTA会長をされたりすごく教育に力を入れている議員さんでした。これは会話の中でなんですが東北6県の市長の東北市長会があるのですが、宮城県ほど市は多くないのですが、会話をすると秋田県の市長さん達の方から通過点だからとか、あと記録に残るとまずいのですが、高校卒業してからの進学率で言えば宮城県さんの方がずっといいですよ、と会話をよくしていました。たぶん学校で例えば先程の小学校だったら8校があつて数字だけいうと1から8まで並べれば、それを校長先生みんな知っていてたぶん点数だけ上げるならどうするかは抑えていますよ。要するに私じゃないですが90点いつもとる子は伸び代が10点しかないわけです。50点60点のグループだと伸び代がずっとあるわけです。このグループをまず頑張らせるのが大切だと、それはたぶん家庭の協力も必要です。学校だけではなくて。

ようするに帰宅後の学習環境を確保するとか、特別に休日とか夏休みや冬休みの期間をどうするかとか、それから先ほど石森さんの方からご定義いただいたように東松島市としての学力向上を一層明確化すること、そういったことを毎年教育委員会の方でまとめてこういう対策の会議ということではいただいています。教育長さんの方から頂いて私も把握はしています。そういったことでは、教育委員会だけの問題じゃなくてあるいは家庭だけの問題じゃなくて基本的には町づくりの中で学力向上も環境づくりをしましょうとしないと、なかなか上がっていかないと思います。地域が子供を支えているというところもありますし、それから今はお父さんだけとかお母さんだけの家庭もありますので、そういった頑張っている家庭を地域が支える、あるいは保護者として支えるかそういった社会づくりをしていかないと根本的な解決までにはいかないと思っています。皆さん気づき始めているので、それをどういうふうに具現化するか、誰がやるかとか、予算とかそういったところすよね。そういうふうには思っています。

工藤教育長 ありがとうございます。

阿部市長 では、次に進んでよろしいですか。それでは続きまして議題（3）のその他ということで、その他としては事前に私の方に2点説明したいということで1つ目は旧浜市小学校の利活用についてであります。総務部長の方から座ったままでお願いします。

<（3）その他（旧浜市小学校の利活用について）総務部長より説明>

阿部市長 はい、ありがとうございます。ただいまの説明についてご質問があればご発言いただきたいと思います。野蒜小学校がでてきましたけど、よろしいですか。はい、あとは教育委員会の方か直接ご質問いただければと思います。続きましてはその他の2つ目は本市と友好都市である更別村、東根市、東松山市、大田区との交流状況についてです。復興政策課より説明があります。大久班長お願いします。

<（3）その他（友好都市との交流について）復興政策課大久班長より説明>

阿部市長 ご苦労さまでした。ただいまの説明についてご質問等があれば、挙手の上ご発言いただきたいと思います。いかがですか。私が関わって全部完了しましたが、例えば大田区は人口が確か70万人以上で23区の特別区の中で人口が世田谷区に次いで2番目位だと記憶していますが、大丈夫かなと思いました。大きい所と東松島市でようするに持続的にできるかなと。今の区長さん議会それから実際そうですが、まず2つ大田区さんは国内で交流しています。1つは長野県の東御市で人口が3万人位、それから秋田県的美郷町でここは人口が2万人ないで

すが本当に小さい所で、やはり大田区では一番大きいのが大田ふれあいフェスタと言って競艇場でやりますが、2日間で30万人位来ます。東御市なんかは大型トラックで野菜だけを積んで来ます。秋田も同じですが、うちの方は海ということで牡蠣などを持って行ったのですが、牡蠣を初めて食べたという方が結構いるのです。くだらない話ですが市長さん自ら牡蠣をいただいたとか、そういうことで感動しています。東京だとそういったことがあります。大田区長さんが震災直後に4月だったと思いますが参りまして、大田区だと羽田空港があって同じように津波の心配があるということで、職員を勉強させてほしいと気を使わないような言い方をさせていただきましたが、あとは宗教的ですが大曲浜の獅子舞が流されたということで、我々は神社など鳥居が付くと補助金ができないですね。教育次長さんが間に入ってくれましたが、羽田神社さんが支援したいということで、直接神社同士でご支援いただいています。本当に大田区は人口が多くて心配しましたが、大田区さんは全部東日本大震災へというお金を自分達で集めてそして支援の組織を作って、社会福祉部が中心になりました。そして去年の3月31日位にバスで1万2千人位来ました、東名地区の方に。毎月ランチタイムとか、すごい支援でした。それは継続して地域同士が交流していますので。東根市は大曲小学校の児童達と親御さんが早くにハウスの方に行ってさくらんぼだったと思いますが、イチゴの間違いじゃないかと思ったのですが、みなさんから暖かいご支援いただいてこのご支援を返すのは大変だと思ったんですが、そんなことは考えずに児童達とかそれから経済交流とかだんだん裾野を広げていきたいと思いますというお話をいただいて、有難いなと思いました。更別はちょっと遠いですがでも子ども交流をしています、普通は行政同士が結構多いのですが定期的にとか、東松島市の今までのいろんな経験とか理想とかを考えていただいて、これをもう少し裾野がさらに広がるような交流ができたらいいなと思います。まず負担のないような状態で上手くいくかどうか分からないですが、よりみなさんの満足感があるような成果ができればと思っています。失礼いたしました。

私にではなく担当に。よろしいですか。はい、どうぞ木村委員さん。

木村委員 はい、大田区実は私の叔母というかいとこがいまして、交流していただいて有難いなと思っております。今後もっと増やす予定というか交流をするような市町村があるのか、計画があれば教えていただきたいと思います。

大久班長 はい、ちょっと難しいところはありますが今、友好都市の他に防災協定とか結んでいるところはあります。また協定は結ばず震災を機に物産交流とかしている所もございまして、そこはそことしまして今の関係を大事に築いてもっと友好都市まではいかなくても、相互に行き来できるような環境づくりを担当課で私共も含めて商工観光課といろいろしているところです。以上です。

阿部市長 いかがでしょうか。よろしいですか、それでは進みまして<その他>というこ

とで教育委員会からお願いします。

<その他（東京オリンピックについて）教育長より説明>

阿部市長 市長の考えをということなので任期が4月28日までということで先をお話しするということは少し遠慮がちですが、これまで取組んできたことで受け止めていただきたいのですが、東松島市旧矢本町につきましては平成2年にインターハイの男子のソフトボールを誘致しました。その際は審判員とか今の方たちはそのまま審判員なのですが、今は75歳前後の方が多のですが、特に自衛隊さん達とか平成2年にソフトボール競技男子を誘致しました。その時の財産は民泊だったので、各チームそれぞれの各地区センターに泊まっていたいて、地域ごとに宿泊しておもてなしして、そしてチームを応援する。そういったことで最初は億劫で大変でしたが、開催後にすごく財産になりました。自信にもなりましたし、交流というひとつの新しい発展というか、そういうことで地域づくりが絆で結ばれたとかみなさんと他県との絆とか地域の絆とかそういったものを実感しました。そして自信も付きました。そういうことで話は飛びますけども、平成13年に宮城国体これは高校の少年男女の会場になりました。その時同じようにできましたので自信がついたのか平成2年もしていますので、これも同じようにみなさんでしていただいて、です所以我们はスポーツって子供たちにスポーツを見せるための進行とか感動とか今回はいっぱいありますが、街づくりにできると学びました。2回の旧矢本町でたぶん鳴瀬も同じだと思います、取組です。そういうことで私はオリンピックや国体も含めて施設も、鷹来の森運動公園ソフトボール場を整備しましたので、平成11年に国体は平成13年です。その後以前のインカレだったり実業団だったり全国中学校ソフトボールだったりかなり歴史と汗が染みついたメッカになっていますので、そういうことでなくしたくないです。ソフトボールはオリンピック選手や監督が結構球場に足を運んでくれます。です。東京オリンピックが決まる前からもしソフトボールが決まったら、ぜひ東松島市で事前の合宿とかそういった会場として、コボスタクラスでの試合になりますのであくまでも事前調整とか、オリンピックまでの期間のトレーニングとか合宿所とかそういったお願いをして、野球ソフトボールというひとつのコラボでオリンピックが決まりましたので、良かったなと自分たちの思ったとおりだなと、その後生涯学習課も含めて誘致に動いていますので、当然東松島市のソフトボール協会、宮城県のソフトボール協会を通してですがその気持ちは伝えてありますので、まずソフトボールと今までの実績から言って。プラスデンマークと震災後子どもたちも含めてあるいは向こうの大使館、この前は大人の方に行っていました。かなり交流が親しくなっていますのでぜひデンマークの方でも東松島市をご利用下さ

いということでオリンピックの話も出していますが、それから防災関係で大変世界に発信していますインドネシアのバンダアチェとか、あとは議員さんの方でバルト三国の方のすごく小さい国なのですが、そういった所に日本にお立ち寄りくださいと。ただ私はオリンピック前後でいいと思っています。ようは子供たちの交流とかぜひ被災地とかそういうような考え方もいいのかなと。それからちょっと業務からずれていますが、パラリンピックとかボッチャなんてどこでもできると思っています。もしかしたら環境整備するかもしれませんが。そういったオリンピックと関わる、そしてやはり被災地だということで長沼ボートは会場からは残念ながら漏れましたけど、我々はそういった中では被災地の一員としては協力していきたいなどの考えでここまでは来ましたので、あとは新しい市長さんと教育委員会でまた具現化に向かっていっていただけたらというのが今の気持ちです。失礼いたしました。よろしいですか。デンマークやバンダアチェの話までしてしまいました。デンマークは後で終わりましたら報告というか教育長さんに話題を出していただいたんですが、感動したんですよ。と言いますのは今回ではなくて、子供さんが2回目に訪問されて帰ってきて変わったというのです。ようするにすごく興味を持って日本とデンマークを比較したり、お父さんによく質問するようになって本当に変わったと。お父さんもすごく嬉しくなって俺も頑張らないとといういことで、デンマーク効果ですね。お父さんはハウスできゅうりを作っているのですが、この間農林水産大臣賞をいただいてその賞状を私に持ってきました。お話を聞いたら息子がデンマークから帰ってきたら変わったと、だから俺も頑張らないとと言ってました。こういった被災交流は家族にも本人だけでなく、そういった事なんだと思いました。すごく嬉しく思いこういう交流は波及効果があると。議会でもこれを今後どう生かすという質問がありましたけど、デンマークですねこれからも期待しています。それでは、その他はよろしいですか。はい、それではありがとうございました。以上を持ちまして予定の議題はすべて終了致しましたが、各委員会から何かお願いがありますか。私の方からお礼を言わないといけないですね。これで感謝を申し上げたいと思います。では、事務局お願いします。

小山総務課長（司会） それでは閉会のごあいさつを工藤教育長にお願いします。

工藤教育長 はい、大変貴重な時間を割いていただいて市長さんはじめ市役所の皆さんに総合教育会議を開催していただきましてありがとうございます。阿部市長さんとの総合教育会議は大変暖かい雰囲気の中で話ししやすい会議だったなと思っています。お別れだというイメージで私は話しているんですが、当市の教育を本当に大事にしてくださる市長さんで子供たちのことや、あるいは家庭こと地域のことも含めて広い視野でお話しいただいて有難かったなと思っています。今回がこの後急に何かがあって開かれない限り最後の阿部市長さんとの総合教育会議ということで残念ではございますが、今後もどうぞ大所高所から

教育行政についてご指導ご助言いただきますようお願い申し上げまして、御礼を兼ねての閉会の挨拶にさせていただきます。本当に大変ありがとうございました。

阿部市長 今日ありがとうございました。

小山総務課長（司会）以上で平成28年度第2回東松島市総合教育会議を終了します。本日は大変ご苦勞さまでございました。ありがとうございました。

7 閉会 午後4時45分